

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「衣を正し、時を守り、場を清める、そして自分を磨く」の教育目標のもと、社会で通用する規範意識を醸成する。また、もう一つのキーワード「脳力開花」を掲げ、激動の社会で力強く生き抜き、生涯を通じて学び続ける力を高めようとする姿勢を育む。 1 基礎学力を確立したうえで、希望する進路先において論理的かつ科学的な発想ができるように、思考力、判断力、表現力を育成する。 2 特別活動や課外活動の活性化に力を注ぎ、自発的な行動力、創造的な企画運営力等を伸ばし、将来社会生活で活かすことができる資質を育成する。 3 挨拶励行・時間を大切にする・整理整頓実行・清潔な着衣など、社会人として通用する基本的な規範意識を定着させる。 4 寄り添いの姿勢とカウンセリングマインドを備えた指導を重視し、生徒や保護者から信頼され、安心して学ぶことができる学校となる。 5 全ての生徒が他者理解や思いやりの心を持つとともに、自らを大切にし、夢や希望を持って新しい社会を切り開く態度を育成する。

2 中期的目標

1 社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現 (1) 基礎学力の充実と授業における ICT の効果的な活用を図る。 ア 1 年時の国数英授業において、生徒の理解度や希望する進路に応じて少人数習熟度別授業を行って基礎学力の充実を図る。 イ 教科・科目の特質等を踏まえた上で、1 人1 台端末及びプロジェクターを効果的に活用して ICT を効果的に取り入れるとともに、生徒が協力して学び、成果をアウトプットできる授業を推進する。 ※ 少人数授業アンケートの実施教科平均の肯定率 令和7 年度 90%以上を維持 (R2：90%, R3：92%, R4：95%) ※ 教育産業の1・2 年生基礎力診断テストの GTZ 平均値 (国数英) 令和7 年度までに C3- (R2：C3-, R3：D1-, R4：D1-) (2) 希望する進路の実現を図る。 ア 一人ひとりの生徒が希望する進路を実現する。 イ 将来に夢や志を持って自己の可能性を広げ、自らの職業観・労働観の形成を重視したキャリア教育を行う。 ※ 3 年生徒向け「自分の希望した進路への満足度」 R7 年度まで 90%台の維持 (R4：96%) (3) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業を行うとともに、授業力の向上、観点別評価の定着・改善を図る。 ※ 生徒向け学校教育自己診断の授業満足度 令和7 年度 80% (R2：68%, R3：67%, R4：74%)
2 多様で変化が激しい社会で生き抜く力の育成 (1) 服装・遅刻指導や美化活動等の適切な生活指導や教育相談を通して、社会人として通用する規範意識の定着を図る。 ア 学校目標である「時を守り」の徹底を図り、遅刻指導体制を充実させ遅刻数を大幅に減らす。 イ 課題を抱える生徒について SC・SSW と緊密に連携し、生徒情報交換、ケース会議等を実施し、支援委員会を中心に指導方針を明示する。 ※ 遅刻者数 令和7 年度 3000 以下 (R2:2836 R3:3346 R4:3222) ※ 皆勤者数 令和7 年度 140 人以上 (R2：175 人, R3：102 人, R4：100 人) ※ 生徒向け学校教育自己診断「困ったことや悩みがあるとき相談できる先生がいる」肯定率 令和7 年度 70% (R2：63%, R3：60%, R4：64%) (2) 特別活動等の活性化を図る。 ア 生徒会行事、学年行事、部活動を活性化し学校への帰属意識を高め、明るく元気な学校生活を送ることができるように支援する。 イ 部活動、各種検定等の優秀者に対し、式典の際に「守口東激励賞」(副賞：オリジナルタオル) を贈り、特別活動や検定試験への参加を促す。 ※ 部活動加入率 令和7 年度 40% (R2：45%, R3：36%, R4：27%) ※ 生徒向け学校教育自己診断「学校行事が楽しい」肯定率 令和7 年度 85% (R2：77%, R3：83%, R4：77%) (3) 「いじめ防止対策推進法」のいじめの定義を踏まえ、いじめを認知した際には「いじめは絶対に許さない」との強い決意のもと、迅速かつ適切に対応する。 ※ 生徒向け学校教育自己診断「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 令和7 年度 86% (R2：76%, R3：76%, R4：83%) (4) 災害発生時に迅速かつ安全に対応できるよう、市や近隣施設とも連携した訓練を実施し、万全の防災体制を構築する。
3 地域に愛される魅力ある学校づくり (1) 情報発信と外部組織との連携を図る。 ア 異なる校種間交流や地域コミュニティとの連携等の機会を設定し、協働の意識を醸成する。 イ Web ページ、メールマガジン、電光掲示板、校内ディスプレイ等を充実させ、学校内の教育活動を内外に発信するとともに、中学生にとって行きたい学校となる。 ※ 保護者向け学校教育自己診断「HP やメールマガジンで学校の様子がよくわかる」肯定率 令和7 年度 85% (R2：71%, R3：77%, R4：74%) (2) 授業等を通した国際交流を行うとともに、自身のキャリアデザインを考え、グローバルに活躍できる人材を育成する。
4 働き方改革の推進と機能的な校内体制の整備 (1) 働き方改革の推進に取り組む。 ※ 教職員向け学校教育自己診断「本校における働き方改革に係る取り組みは進んだ」肯定率 令和7 年度 90% (新規) (2) 安全衛生委員会を更に活性化し、教職員間の意思疎通を円滑にするとともに、縦・横の風通しの良い職場の実現をめざす。 ※ ストレスチェック分析結果における「職場の総合健康リスク」(全国平均 100 で低い方が理想) 令和7 年度 90 ポイント (R2：90, R3：86, R4：98)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和5 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【進路指導・生徒指導等】(※以下〔 〕内は前年度結果) ・生徒「学校へ行くのが楽しい」が 85% [77%] となりポイントが大きく上昇した。生徒同士、生徒と教員との関係が良好であり、維持、継続が必要である。 ・3 年生対象「自分の希望した進路に満足している」が 98% [96%] となり、担任はじめ教員の寄り添った指導により「一人ひとりの生徒が希望する進路」の実現がさらに進んだ。 ・生徒「困った事や悩みがある時、相談できる先生がいる」は 70% [64%]、生徒「いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」86% [83%] であった。教員がカウンセリングマインドを持って生徒に対応し、教員と生徒との信頼関係がより強くなった。 【学習指導等】 ・生徒「授業は分かりやすくなる。」が 79% [74%]、生徒「学校は 1 人 1 台	第 1 回 (7/13) ・先生方全体の相談対応力を向上させるための職員研修なども取り入れてはどうか。生徒へのアプローチ・支援は先生方のマインドや相談スキルの向上を試み、足並みを揃えることで解決することもある。 ・教職員の働き方改革については根本的に変えていかないと改革は上手くいかないのでは。ICT 機器を活用して少しでも教員の負担を減らすとよいのでは。 ・LGBT への対応について、悩みを見せてくれる生徒だけでなく、悩みを抱え込んで表に出せない生徒を救うためにも、生徒の状況について幅広く情報を共有するようにしてほしい。 第 2 回 (12/11) ・反転授業も視野に入れるなど、生徒が生徒の言葉をきく時間を作る工夫を今後も続けてほしい。 ・初めて行ったオープンキャンパスで (進路を) 決めてしまうのではなく、もっといろいろ見て自分の進路についてしっかり考える生徒が増えるように進路指導を続けてほしい。

府立守口東高等学校

端末を効果的に活用している。」が 84% [75%] となり、1 台端末を活用した授業など、教員の授業への工夫が結果に表れた。 ・「一番望む授業」については ①高校生として基礎学力が身につく授業 ②進路希望が実現できるように学力を高める授業 ③生徒に応じて授業レベルやスピードを細かく調整する授業 のうち、生徒、教員ではともに①、③がほぼ 30%以上となっている。生徒が望む授業と教員の意識が一致していることが生徒の授業の満足度上昇につながった。ただ、保護者の意識としては②が最も多く、①、③の授業から②にある進路実現に結びつくようにしていきたい。 【学校運営】 ・教職員「緊急の課題に対して迅速な対応ができている」は 77% [87%] となった。また教職員「分掌や学年の連携がとれていて、組織的に学校運営が行われている」は 71% [80%] となった。アンケートの回収率が昨年より上昇し、100%になったこと、構成メンバーが変わったことなどの要因は考えられる。教職員の意識が高く、まだまだできるところがあることの表れとも考えられるので、結果を受け止め次年度に向けて改善の方策を考える。 ・教職員「教職員は生徒の意見、保護者の意見をよく聞いている」について、生徒の意見については 75% [92%]、保護者の意見については 79% [95%] となった。教職員としては「生徒、保護者の話をよく聞いてやりたい」という思いはあるが、限られた時間の中でそれができないもどかしさもある。今後も生徒、保護者に寄り添った姿勢を継続、本校の強みとなるようにしたい。	・学校での模試の回数を増やす、生徒への告知の仕方にひと工夫するなど 1 年生の早いうちから進学に向けた学習意欲が高まるようにさらなる工夫をしてほしい。 ・今できている「みんなで勉強がんばろう」という気持ちの輪がさらに広がってくれるとよい。 ・高専大連携が終わった後に 1、2 年生の分野別説明会を行うことで、道しるべやヒントが得やすいように年間行事を組んでいる。そのことも生徒の進路実現の後押しにつながっている。 ・体育祭を民間の施設で行うことによるメリットがとてもよく感じられるので、このまま継続できたらよい。 第 3 回（2/21） ・高専大連携について生徒に対して「次回はどういうことをききたいか」などを調査するためのアンケートを事後に行い、同時に満足度も調査することで、その効果を向上できるのでないか。また、行かない生徒をどのように受講させるかがカギとなっていると思われるため、進路が決まっていない生徒向けの講座（進路ってどう考えるのか、「やりたいこと」をどうみつけるのか 等）を用意してはどうか。 ・生徒にとっては、大学のキャンパスの様子などを見にいくのは大学進学者でなくても刺激になると思うので、体感してみることに意義を感じられるような指導を続けてほしい。 ・授業力向上について、先生方の取組みやテクニックを集めてもりひが虎の巻のようなものを作ってみてはどうか。 ・働き方改革について、さらに ICT 化を進めることで教職員の業務を改善できないか。
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 4 年度値]	自己評価
1 社会で通用する基礎学力の定着と希望する進路実現	(1) 基礎学力の充実と ICT 活用授業	(1)	<学校教育自己診断は生診：生徒、保診：保護者、教診：教職員と略>	(1)
	ア 少人数習熟度別授業の実施	ア 1 年生国数英は少人数習熟度別授業を行う。	(1) ア 少人数授業アンケートの平均肯定率 90%以上を維持 [95%：国 95%、数 92%、英 98%]	ア 肯定 93%[国 94%、数 91%、英 93%]となり、90%を維持した。質問しやすい、発表しやすい、理解しやすいなどの感想があり、結果として「わかる」授業につながる効果が出ているので継続したい。(◎)
	イ 教科・科目の特質等を踏まえ、授業における ICT の効果的な活用	イ 各教員が教科・科目の特質等を踏まえた上で 1 人 1 台端末を効果的に活用した授業に取り組むとともに、「授業見学週間」においては一層積極的に 1 人 1 台端末を活用した授業を公開する。	イ 1 人 1 台端末を活用するように取り組んだ授業実施の教員 87% [84%]	イ 生徒 1 人 1 台端末活用授業実施の教員 86%。目標値をわずかに下回ったが、アンケート回収率が上がったこと、授業以外でも生徒会アンケートや総合的な探究の時間にける活用など用いることが基本となってきた。効果的に活用し、活用率向上を図りたい。(○)
	(2) 希望する進路の実現	(2)	(2)	(2)
	ア 一人ひとりの生徒が希望する進路の実現	ア ・進路の実現のために、前向きな姿勢で全教職員が全力で生徒をサポートする。 ・進学講習を継続的に行う。 ・各種検定の講習・表彰を行い、受験を奨励し、将来の進路に生かす。	ア ・3 年生診「自分の希望した進路に満足」90%台の維持[96%] ・検定の受験者合計 10%増 [297 人：情報・ワープロ検 193、漢検 87、英検 13、数検 4]	ア ・3 年生「自分の希望した進路に満足」98% 夢や希望をあきらめず、一人ひとりの生徒が可能性を広げる進路実現に取り組んでいきたい。(◎) ・検定の受験者合計 184 人（英検 20、漢検 70、情報検 73、ワープロ検 20、ハグел能力検 1）授業や講習、学年集会でも案内し、受験を呼びかけたが大きく減少した。しかし英検や情報処理検では 2 級以上の上位級合格者も出てきており、一定の成果は見られた。また新たにハグел能力検定を受験する生徒も現れた。今後も成功体験を増やして自信を持たせるためにもさらに受験推奨を続けたい。(△)
	イ キャリア教育	イ ・進路ガイダンスを実施し、様々な進路について早い段階から考える機会を設ける。 ・高専大連携として出前授業を実施する。	イ 出前授業参加者数 10%増[96 人]	イ 高専大出前授業参加者 77 人。さらに生徒の興味のある講座を準備し、実施体制も検討の余地がある。(△)
	(3) 主体的・対話的で深い学びの実現、授業力、観点別評価	(3) 首席を中心に「授業見学週間」や「研修」を実施し、学校全体で授業改善に取り組む。	(3) 教診「授業力改善」肯定率 93% [90%]	(3) 「授業力改善」75%。「授業見学週間」を設けているが、その後の振り返りや検証方法などを考える必要がある。(△)
2 多様で変化が激しい社会で生き抜く力の育成	(1) 規範意識の定着	(1)	(1)	(1)
	ア 遅刻指導体制の充実	ア 登校時に生活指導部や担任が門に立つとともに、粘り強く遅刻指導を行い、遅刻者数を減らす。	ア ・年間遅刻者数 3 %減[3222] ・皆勤賞 115 人[100 人]	ア ・遅刻 3280 となり結果的に昨年より増加した。担任を中心に寄り添った指導を継続していきたい。(△) ・皆勤賞 64 人。新型コロナが 5 類に移行したことにより、出席停止が減少した影響が大きいのと考えられるが、家庭とも連絡を取り、遅刻や欠席を減少させるようにしていきたい。(△)
	イ SC・SSW 連携	イ 支援委員会を中心に SC・SSW と連携しながら、寄り添う姿勢を大切にする。	イ 生診「困った事や悩みがある時、相談できる先生がいる」肯定率 67%[64%]	イ 「相談できる先生」70%。家庭や友人関係にさまざまな不安をもつ生徒に対して、丁寧な指導を継続していきたい。(◎)

府立守口東高等学校

	(2) 特別活動等の活性化 ア 各種行事や部活動の活性化 イ 特別活動や検定試験への参加促進 (3) いじめへの迅速かつ適切な対応 (4) 防災体制の構築	(2) ア 部活動体験と紹介映像の更新作成で部活動勧誘を促進して、加入率を向上させる。 イ 終業式・始業式で守口東激励賞を贈り、特別活動や検定試験への参加を奨励する。 (3) いじめを認知した際には、いじめられた生徒の立場に立って、迅速かつ適切に対応する。 (4) 南海トラフ地震等の今後発生が予想される自然災害等に則した避難訓練を実施する。その際、予告なし避難訓練とする。	(2) ア 部活動加入率 30% [27%] イ 部活動表彰や検定合格者等に 31 人/回贈る。(皆勤賞数を含まず) [28 人/回] (3) 生診「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 86%[83%] (4) 具体的な災害を想定した予告なし避難訓練 2 回[2 回]	(2) ア 部活動加入率 36%。新型コロナが落ち着いてきたこともあるが、部活動を頑張る生徒が学校全体にいい影響を与えている。(◎) イ 守口東激励賞は 30 人/回。検定上位級合格者も出てきているので生徒のモチベーションアップのためにも継続したい。(△) (3) 「いじめ対応」86%。生徒の観察、対応、情報共有を今後も心がける。(○) (4) 避難訓練は 2 回実施。地域と連携した避難訓練を継続する。(○)
3 地域に愛される魅力ある学校づくり	(1) 情報発信と外部組織との連携 ア 校種間交流や地域コミュニティとの連携 イ 情報の発信と、中学生の行きたい学校 (2) 国際交流の推進	(1) ア ・地元中学校への出前授業や中学校内説明会への参加を行う。 ・支援学校等との交流を行う。 ・中学校・支援学校の授業見学を実施する。 イ ・パンフレットを新規デザインに変更する。 ・Web ページを新規デザインに変更し、ブログを含め、記事を随時更新する。 ・正門横電光掲示板で流すメッセージを時期に応じて変更する。 (2) 授業等を通して、インターネットによる交流や海外にゆかりのある方を地域から招いた直接的な交流を行う。	(1) ア ・出前授業 5 回以上維持[6 回] ・支援学校交流 2 回[2 回] ・中学校・支援学校の授業見学 2 回[2 回] イ ・アクセス数 1 日平均 10%増 [77 件/日] ・保診「Web ページやメルマガで学校の様子がよくわかる」肯定率 78%[74%] ・電光掲示板 20 回以上更新 [23 回] (2) 国際交流を 2 言語で計 2 種類以上行う。[2 言語計 4 種類]	(1) ア ・中学校への出前授業、説明会 8 回。本校の PR、地域連携のいい機会となった。(◎) ・ボランティア部を中心に支援学校との交流 2 回 (○) ・中学校、支援学校の授業見学を計 2 回。初任者等には他校種の学校を知る良い機会となっている。(○) イ ・パンフレットを刷新し、Web ページの構成を少し変更した。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、臨時休業の連絡など在校生への指示を出す必要が無くなったこともあり、Web アクセス数は減少し平均 56 件/日。ただ中学生の進路希望調査については昨年より増加傾向であった。学校の様子を伝えられるよう、また魅力的な取組み等の発信を継続する。(△) ・保診「HP やメールマガジンで学校の様子がよくわかる」76% 保護者からの回答数が昨年に比べて減少したことが目標値に届かなかった要因の 1 つと考えられるが、保護者から校長ブログ等で発信した内容を子どもとの会話にしているとの声も届いており、今後も校内の様子をタイムリーに発信していく。(○) ・電光掲示板 26 回更新 (◎) (2) 海外交流等 4 種類実施(韓国語 3、中国語 1) 韓国語は韓国の高校生との交流も実施でき、異文化理解・異文化交流のいい機会となった。(◎)
機能 4 的な校 内体制 の整備 と 働き方 改革の 推進と	(1) 働き方改革の推進 (2) 風通しの良い職場の実現	(1) 働き方改革の推進として、取組みを進める。 ・教職員 1 人 1 台端末を利用したペーパーレス会議 ・フォーム作成ツール等による生徒欠席連絡 ・全校一斉定時退庁日の設定 ・外線電話受付中止時間帯の設定 (2) 安全衛生委員会が、産業医の時節に応じた専門的な情報を職場に提供する。縦・横の風通しの良い職場の実現をめざすとともに、上司・同僚からのサポートに努める。	(1) 教診「本校における働き方改革に係る取組みは進んだ」肯定率 80%[新規] (2) ストレスチェック「職場の総合健康リスク」95 ポイント[98 ポイント]	(1) 教診「働き方改革に係る取組みは進んだ」の肯定率 54%。ペーパーレス会議、外線電話受付中止時間帯の設定などの取り組みは進んだが、実質的な仕事量の変化が見られなかったことが原因と考える。(△) (2) 「職場の総合健康リスク」88 ポイント。教育庁全体 99 より大幅に下回り、職場環境が府立学校の中でも、より健康的である結果が得られた。引き続きより良い職場環境を維持することに努めたい。(◎)